

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム福寿荘Ⅲ(青空ユニット)	評価実施年月日	平成19年5月30日
評価実施構成員氏名	野村まゆみ 大越 健司 石倉 浩美 南 早苗 漆崎 愛 野口ヨシエ 向島 恵子		
記録者氏名	野村まゆみ	記録年月日	平成19年5月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(    部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として作りあげてあり、玄関に掲示している。	○	今後は、スタッフルームにも掲示し、いづれ理念に基づいたサービス提供を継続していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的ケアが、理念に基づいたケアであり日々、スタッフ間で日常ケアのあり方を考える時、理念に合っているかという、問い掛けをしながら取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時から理念に関して、説明し、日々御家族と話をする際、理念に基づいたケア実践をお知らせしている。	○	家族には理解していただけでは思うが、地域の方々に関しては、運営推進会議等を利用して、伝えていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方(犬の散歩など)と、お会いする時、あいさつを交わし、お互いに声を掛け合える様な関係づくりに努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、資源回収、回覧情報等地域の一員として活動、交流している。	○	更に町内行事、町内清掃などにも積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つ情報(介護に関する情報)を送信できる様、努めている。	○	自分達の持っている知識やノウハウを地域に還元できる様、認知症介護教室等を行いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義・内容を理解し、その結果を踏まえ、サービスの質の向上に向けて取り組むシステムを作っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議では、入居者の生活の状況等報告し、又意見交換できる様、テーマを決め取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営等で必要は情報や疑問等を担当者に確認する事を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料をいつでも見れる様準備し、又実際に活用している方が居下事もあり、必要は方に活用、支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待防止の意識を持ち、注意を払い、防止に努めている。	○	虐待防止法や抑制廃止に関する研究会を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に書面での読み合わせを行ない十分説明、理解できる様に行っている。又生活圏で変化ある時(長期的病前治療)には家族が不安にならない様話をしている。</p>	<p>今後もいいに実施している事を継続していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情があれば内容を明らかにし公表する。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族が訪問される度日常記録及プランを見ていただき報告している。又連絡ノートを活用し、10分にあわせた報告を行なっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を行ない、ユニット毎、又は事業所毎、更に全体にと、内容を示している。</p>	<p>○ 意見箱設置</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議等で管理者はスタッフの意向を伝えているなどしている。又、常に職員ひとり、ひとりの意見を聞き、個別の話し合いを多くしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常に丁寧であり調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の意向を踏まえ、職員への異動を求めている。又、常に異動等による影響を考慮し、入居者の状態をいっしょに把握し、その変化に対応できる様努力している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に人材育成を念頭に置き内外の研修に広く参加する機会を設けている他、日常的なケアの現場で、具体的指導も行なっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内・区内の連絡会には積極的に参加できる体制を作り、情報交換、交流を行っており、その活動を通じ、ネットワークづくりに努めている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	組織的にひとりひとりのスタッフの状態を把握し、話し合い等においてストレスや悩みを把握する事に努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け、支援を行っており、日常的には現場での様子をしっかり把握、具体的な取組環境の整備、実態の把握に努めている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から必要のサービスにつなげていける様、ゆくり話ができる機会を作っている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から、家族支援を念頭に置き、適切なサービス利用につなげていける様、充分な時間をかけ話を聴く機会を設けている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から(大半は家族)相談を受けられた際、何に困っており、その事はどう対応するか、自分達の提供できるサービスばかりではなく、状態に適した対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所見学をしていただき、スタッフや施設の様子を知らせてもらいながら、実際のサービスへつなげていける様子を工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に基づいて実践していく事が共に過ごし支えあう関係づくりにつながっていくと考えられるので、常にひとりひとりに目を寄せ、共に同じ時を過ごす様子を努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方から方向性がある時、あるいは必要に応じて電話等で、日常の本人の様子や伝え情報の共有に努める事により、一緒に本人を支える関係づくりに努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	同上 更に家族訪問時に、本人とゆっくり関わり環境を作り、共に過ごせる様子を努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ひとり、ひとりの今の生活習慣をしっかりと伝え、気軽に友人が来たり、買い物や散歩、行きつけの店(美容院、スーパー、デパート)に行く様子を努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとり、ひとりの状態や状況から集団の中での役割、あるいは入居者同士の関係づくりを、個性や相性も踏まえ、働きかけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移行してからも、お互いに訪問できる条件を整え、スタッフと、共に顔を見せに行ったり、来たりできる様 図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の希望・意向の把握に努めている。 又、日常の会話や表情から本人の気持ちと把握できる様 努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、 フォーカバシーと寄り添って本人や家族から生活歴を聞き、これまでの暮らし方を終える様 努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し、一日の活動(24時間単位の生活リズム)の中で、本人の状態を終えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の活用で実践 カンファレンスで、スタッフひとりひとりの、本人の状態をどう終えているか確認し、検討している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的、日常的なカンファレンスで、修正見直しを行っている (モニタリング)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録にプランの実践と結果を記録し、情報共有できる様、記録の取り方を学習し、カンファ時にその記録を活用できる様努力している	○	記録の目的や日常の個別記録の記入の視察、具体的方法の学習を継続して実施したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携に依り定期的な診で、外来受診の負担が軽減ついたり、入院時には早期退院の支援、終末期の支援など、本人・家族の要望に対応できる様努力中		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の方々と、散歩や火曜日の時など交流しながら、ドライブにもいしょに参りする機会を持って、又、近所の方をボランティアとしてホームに週4日受け入れしている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向や必要性に応じて、お灸やマッサージ等の導入受け入れを行っている。他サービス利用の支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい必要時協力体制がとれる様関係構築に努めている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関の医師が定期的な診察を行い又、専門医の適切な医療も必要時受けられる様支援している		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ひとり、ひとりの状態に応じて、診断治療を受けられる様、かかりつけ医と、相談・アドバイスをもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が日常的な健康管理を行ない、ケアスタッフと、情報交換・共有し、支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から、病状の説明を受け、退院後の生活援助ができる様、入院先へ職員が貝舞に行く様にしていて、又、早期退院に向け、家族、関係医療者と連携。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意志・意向を入院時から書面で確認し、状態変化がみ、た時は本人・家族の意向変化の有無を確認し、から、その方針も関係者で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意志・意向を随時確認し、状態変化に応じて、医師・職員で密に連携をとり、安心して終末期を過ごせる様取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	センター方式を利用する事で、移り先の事業所に情報提供し、本人の状態、ケア状況を伝え、連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	個人情報保護法の理解の為、職員に向け、その内容の学習に取り組む
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	行事以外に 日常的に晩酌等にも取り組める様にしたい。 (条件を整え楽しみとして提供したい)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン(リズムも)を把握し、声掛け、誘導で、トイレでの排泄を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の状態や意向を確認し、なるべく、ゆくり入浴できる様、本人・職員で、日々相談しながら、実施している。 又、好みの入浴剤等使用支援している	○	就寝前の入浴を希望される方に対して、条件整備を検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整え、就寝に向けて、ゆくり、穏やかに過せる様、努力している。又、就寝前にホットミルクを飲む等、安眠に役立つ工夫をしている	○	状態に応じて足浴等も実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり、ひとりの生活歴から、持て、力を発揮できる様、支援し、役割から達成感・充実感のもてる生活が送れる様、支援している。(センター方式利用)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、小額を自分の財布に持たせてもらう等、本人の状態に、支援をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・気温をみて、なるべく、外出散歩できる様、声掛け援助しているが、ADLに関わる、外出の条件を整える様、努力している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに、出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て、昔からの遊び場のデパートや美容室への外出の機会を作っている	○	限られた入居者だけではない、ひとり、ひとりの意志や思いを把握し、普段行けない場所への外出に取り組みたい。(条件をしっかりとつくる)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けてほしい希望があれば、自室に子機を持って行き、ゆくり話ができる様援助している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時、ゆくり過せるスペース(夕目的室)の活用等工夫し、又、いつでも訪問できる奮闘制作りに努めている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ひとり、ひとりの入居者の状態を把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	更に身体拘束とほとんどの事に関するの、ほとんどの学習を継続したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずとも、日中の入居者の様子をしっかりと促せる事で、安全が暮らしか送り出している。(動き、気分をキャッチ)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とおして、入居者の所在をしっかりと把握できる様、取扱いが細かに配慮し、入居者の安全を守る様努力している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活に必要な物は注意の必要な物でも、なくす事なく、採管管理している。危険はない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアプランに載せ、ひとりひとりの状態に応じた、事故防止に取り組むよう努めている	○	継続して学習する事で、知識や意識を積み重ねていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故に対応できる様、場面々で訓練を行っている。 又、連絡システムの確認を常に行っている。	○ 継続的に緊急時の対応や対応について学習していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施すると共に避難口等の確認を毎日自主実施している。	○ 災害時の連絡システムや避難誘導に肉しての具体的方法をしっかりと身につけてもらう為のトレーニング学習を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ひとりひとりに合わせた安全対応をとりながら、自由な生活を送ってもらえる様、家族訪問時にケアプランを確認してもらい説明努力をしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の常日頃の状態を把握し、その変化に気付いた時は、必ず有償でチェックを行い、管理者・看護師に報告、必要に応じて連携医師に連絡対応している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更、用法、用量の変更時、職員全員に注録で報告確認できている様、徹底している。又、ひとりひとり	○ 一般的な内服薬服用時の注意喚起(誤薬、服薬忘れなどの防止)を学習し服薬支援に役立てていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールの為に必要な食料や乳製品の工夫を行っている。又、水分の確保、運動、時間ですぐにトイレに座るなど、ひとりひとりの状態に応じて工夫する様努めている。	○ 排便のメカニクスや排泄全般の基礎知識を学習する場を設けていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った方法で声掛けや実施を行っている。又、義歯洗浄や介助のみでなく口腔内の状態を把握し情報の共有を行っている。	○ 口腔ケアの実際をVTRで学習する予定を立てている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保が何故必要なのか、又、疾患に依り、食事・水分の制限される事などをひとりひとりの入居者の状態からしっかり理解できる様、職員間で共有、個別の水分チェックも実施。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する情報や、発生状況などをしっかり把握し看護師、管理者が入居者の状態をしっかりと察知してもらい、速やかな対応が行われる様徹底している		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りの調理具やふきん類は、毎月清潔を保つよう漂白・洗濯し、又、冷蔵庫内は随時拭いて清潔を保ち、食材の残リや消費期限のチェックを行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周囲はいつもきれいにし、明るい奮闘室を作る為、花をアレンジしたり、コート掛けやカサ立てを設置、使い勝手を工夫している	○	玄関先に観葉植物やプランターなど、更に季節感や明るい奮闘室を作れる様更に工夫していく。又、憩いのスペース(ベンチ・テーブル)の工夫もしたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分(居間や廊下・壁)の飾り付けをし、普通の家の奮闘室を作り、又、季節感や味わえる様、時期々に合、た置き物や飾り付けをし、ゆくり過せる様光や音の工夫をしている	○	もっと、花や植物を置いて、服で楽しめる様に工夫したい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のスペースを工夫し、ソファでゆくり過したり、和室にテーブルを置き自由に出入りしたり、和室横にこたまりと、イスとテーブルを置き、ゆくり静かに少人数で過せるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家にあたり居心地のものを居室に置き、又、写真や絵を飾り、自分の居室でゆくり、安心して過ごせる様、ひとりひとりの居室の環境作りに努めている	○	各居室入口に各々入居者の好みののれん掛け、ドアを開放しても、中が丸見えにならない様、ゆくり暮ら着いて過ごせる工夫をしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部分の窓を定期的に向け換気に努め、又、外気温や天候に応じて、温度調整を細めに行っている、又、臭い対策にも取り組んでいる		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ひとりひとりの状態を把握し、手すりやトイレの高さ、広さなど住環境を整える視察で入居者に必要な道具も含め、環境整備の工夫に努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗、不安を防ぐ為にトイレや居室の目印、表札の工夫をしている、又、状態変化があった場合、何が原因で混乱しているのかアセスメントし対応する様努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に畑を作り、出来た野菜を収穫したり花を観て楽しんだり、外をながめる楽しみを作って工夫している		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果
項目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大いに増えている</li> <li>② 少しずつ増えている</li> <li>③ あまり増えていない</li> <li>④ 全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての職員が</li> <li>② 職員の2/3くらいが</li> <li>③ 職員の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族等が</li> <li>② 家族等の2/3くらいが</li> <li>③ 家族等の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

スタッフ(下)ひとりひとりの入居者が「できる力」を発揮できる様、援助している。その為に入居者をしっかり促し、心身状態を把握、その情報を共有し、安心して暮らせる様、努めている。

又、ひとり、ひとりの生活ペースを尊重しながら、ゆとり過せる環境作りを目指している。

御家族と非常に情報提供・共有を心掛けている為、信頼関係ができていると考える。